

— 大型クラゲが生まれる場所 —

資源海洋部 海洋環境グループ 豊川 雅哉

皆さん、大型クラゲのことを覚えていますか。大きなものでは直径 1m、体重百 kg にもなって、夏から秋にかけて網を使った漁業に大きな被害を与えた、「あのクラゲ」です。あの大型クラゲはいったいどこからやって来るのでしょうか？

彼らが東シナ海および黄海（以下、東シナ海と略します）で発生して、対馬海峡から日本海に入って来ることが、これまでの調査研究で明らかになりました。でも、広い東シナ海のどこで発生するのかは、まだはつきりわかっています。海水の流れを研究している人達は、多分、長江の河口のあたり、と言っています。でも、そこで大型クラゲの子供を見つけた人は誰もいません。大型クラゲが生まれる場所がわかれれば、その気象や環境を詳しく調べることで、どうして大型クラゲが大発生するのか、どんな時に大発生するのか、わかるはずです。そこで、私たちは「大型クラゲが生まれる場所」を探しています。

クラゲは、ポリプという小さなイソギンチャクのような生き物から生まれて来ます（表紙写真参照）。春に水温が上昇すると、ポリプは横にくびれが入って数枚のお皿を重ねたような形になり、そのお皿の一枚一枚がはがれてエフィラ（クラゲの赤ちゃん）になります。つまりポリプが住んでいる場所が、「クラゲが生まれる場所」です。しかし、大きさ数 mm のポリプを広い東シナ海の海底から探すのはとても難しいので、私達はポリプから生まれたばかりのエフィラを探すことから調査を始めました。

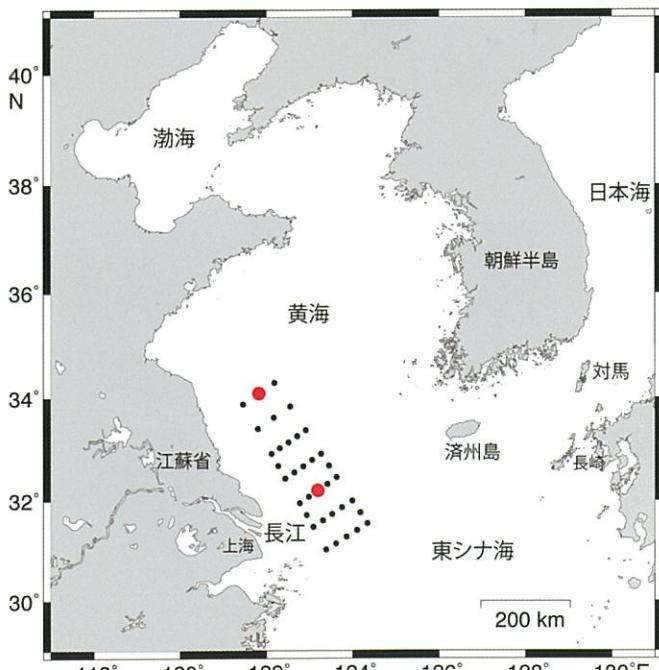


図1 調査海域 丸印が調査した地点で、赤丸がエフィラの見つかった地点

水産総合センターでは、2010 年から中国水産科学研究院の東海水産研究所に委託して、長江河口と江蘇省の沖合の東シナ海（図1）で、大型クラゲのエフィラの調査を行っています。中国の東海水産研究所が漁船を借り上げて調査を行い（写真1）、得られた試料を西海区水産研究所と東海水産研究所の研究者が共同で分析しています。（写真2）また、西海区水産研究所はこの調査計画の立案と実施確認も行っています。

そして昨年の調査で、ついに大型クラゲのエフィラを 5 個体見つけました（表紙写真左）。大きさは直径 3～5mm でした。この成果は今年 2 月にプレスリリースされ[※]、テレビ・新聞などでも報道されました。

このエフィラの成長段階と、採集された当時の東シナ海の水温を詳しく検討したところ、エフィラは採れた地点より南西の沿岸近くで、5 月上旬にポリップから生まれたと推定されました。もっと多くのエフィラが見つかって、最終的にはポリップがたくさん見つかるまで、「大型クラゲが生まれる場所」を探す調査は続きます。

[※] 水産総合センタープレスリリース「世界初！中国水域で大型クラゲの幼体を発見～出現予測の高度化に向けて前進～」
<http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr23/240224-1/index.html>



写真1 調査に使用した中国漁船



写真2 調査後の分析を行う中国水産科学研究院の東海水産研究所の研究者